

**TNC**  
**通信**

2014  
7月号

◀事務局・追加の  
お知らせ▶

☎ 779-1651  
Fax 348-8951

## 第1回の理事会を開催

新体制初の理事会が6月22日、富谷町内の谷香亭で行われました。会計報告、行事参加の報告、当面の取り組み等がありました。このあと懇親会がもたれ、中山会長から「地道な活動の積み重ねを続けよう」と改めて抱負がありました。(S)



晴天の下、留学生44名参加

## 学友会・青年委で「サクランボ祭り」

6月21日、学友会の主催による「サクランボ祭り」が山形県天童市内で行われ、交流を深めました。大型バス1台の参加者で、県青年委員会でもある富谷日中の横山・菊地・中村・佐藤・鈴木・菅原・市瀬・吉澤さん等も応援として参加しました。留学生は初めてのサクランボ祭りの体験のほか、道の駅での足湯や山寺の眺望も楽しみました。(K・Y)

## 仙台の“魯迅”を歩く④

東北大学の片平キャンパスは通行自由ですし魯迅の資料が常設展示されている「東北大学資料館」もある。入口は一番町側、つまり北門が一般的。北門からはほぼ一直線の広めの通路が「旧桜小路」である。右手に本部棟があり、周辺に魯迅が学んだ「階段教室」や広場には「魯迅先生像」等がある。広場のあたりが旧医専であった。南門（五橋方面）の手前の右手に新しく「さくらホール」があり名を留めている。

黒松と桜の木が目を引く。「黒松の並木と枝垂桜」の案内板があり「この南北の通りは元禄の頃から桜小路と呼ばれてきた」とある。黒松は昭和15年に亘理吉田浜から移植し、枝垂桜は慶応年間に寄進した、ともある。春4月、構内の桜は美しいが、残念ながら周樹人の感想は残っていない。

当時は小路の左手は民間地であり、医専の通用門（桜小路門）の向かい側に「晩翠（ばんすい）軒」というミルクホールがあった。「椅子、テーブル式の小さな店で、牛乳や駄菓子、パンなどを売っていた。客へのサービスとして官報や新聞（『河北新報』『東北新聞』と思われる）も備え付けられていて自由に見ることができた」「自然、学生たちのたまり場になっていた。よく周樹人が椅子にこしかけていた。見覚えのある顔を見とめると、ふっと顔をくずして笑いかけた」（同級生談）。官報等には領事館情報もあり母国・清国や日露戦争の情報を得ていたのであろう。



南北に通る桜小路（現在  
Ⓐ、当時Ⓑ、Ⓒはホール）

## 全国女性委員会 30周年記念大会 に参加して (埼玉県川越市で) 水戸憲子



6月13日、川越市内の東武ホテルで開催された「全国女性委員会結成30周年記念大会」に金井恭子・県委員長を中心に6人のメンバーで参加してきました。来賓あいさつ、表彰、ミニコンサート等がありました。印象に残ったのは汪婉・駐日大使夫人の「草の根交流における女性のパワー」と題しての講演でした。「国際関係がどのように厳しくなったとしても、女性の交流は大河の流れのように続くものです」との呼び掛けに、女性の力の大切さに思いを深くしました。二日目は“小江戸”と称される街並みを散策して帰ってきました。(写真は汪さんと宮城の参加者)

今月の  
一冊

「テレビに映る中国の97%は嘘である」(小林史憲著、講談社+α新書、994円)

何とも週刊誌っぽい書名だが、中味はいたって真面目である。著者はテレビ東京のプロデューサー。4年半の中国滞在中の“事件”を取材して目に映った中国を赤裸々に描いている。拘束、21回のつわものでもある著者が言う“嘘”とは「上有政策、下有対策」の現実である。「反日デモの最前線」「中国一の金持ち村」等、6章からなる。中でも「マオタイ酒が象徴する社会」では人気ギフトだが市場に出回る9割は偽物だが、酒自体の味に格差はないという事情や、あの毒餃子事件が生まれた背景への取材競争、中朝国境の緊張した密輸など、読んで飽きさせない。政治だけではない中国での様々なニュースがTVで取り上げられているが、その取材の苦労や実態の裏側を視点の一つとして、見ていくべきだろうと思った。(Y)